

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
 大学院生研究
 2011年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	社会学研究科	社会学専攻
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	社会学研究科社会学専攻 博士後期課程1年	渡辺 浩平	印
指導教員	所属・職名	氏名	
	社会学部・准教授	松村 圭一郎	印
自然・人文・社会の別	自然 ・ 人文 ・ <input type="checkbox"/> 社会	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
研究課題名	ネイティブ・アメリカン・チャーチについての民族誌的研究		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2011	年度	
研究経費	200	千円	

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の対象は、20世紀の半ばからアメリカ合衆国のナバホ保留地内で実践されるようになったネイティブ・アメリカン・チャーチ（以降 NAC）という汎先住民宗教団体の宗教実践である。1918年にアメリカ合衆国で組織された NAC の宗教実践は、現在、アメリカ合衆国に留まらず、カナダ、ペルーで実践されるようになっている。本研究では、そのようにグローバルに展開する NAC の宗教実践が、ナバホ保留地内のよりミクロな文脈における人々の共同性の構築といかに関わるものであるかを明らかにするために、文献調査及びアメリカ合衆国アリゾナ州で現地調査を行った。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[アメリカ先住民] [宗教] [共同性]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の対象となる NAC の宗教実践は、19 世紀の半ばにメキシコ先住民からアメリカ先住民に伝わった幻覚成分メスカリンを含むペヨーテというサボテンを共食するという実践に端を発するものである。その後、ペヨーテ共食の実践は、20 世紀のアメリカ先住民の間で、キリスト教的な要素を持つ実践として普及する。1918 年のオクラホマ州で、キリスト教の一派の汎先住民的な宗教団体として組織され、現在 25 万人を超える会員数を擁し、アメリカ合衆国の 31 州とカナダ、ペルーに合わせて 173 以上の支部を持つような宗教団体になっている。

I. 先行研究の問題点

先行研究では、NAC をアメリカ社会の支配的規範や差別構造等の、先住民に対する抑圧への抵抗のための宗教運動であると捉えられることがあった(代表的な研究としては、ナバホ保留地における NAC の宗教実践の普及を描いた *Peyote Religion among the Navajo* [Aberle 1966] がある)。しかし、NAC を宗教による象徴的な抵抗と論じることには、以下の問題点が指摘出来る。

① 西欧的な宗教概念とは、「超自然的存在に対する信仰」という普遍的な「人間の本性」と、組織・教義・信者という体制であることを前提としているが、その前提は西欧において歴史的に構築されたものであり、通文化的な実践を比較し抽象化する概念としては不適切である[タンバイア 1996(1990); Asad 1993; Harré 1981; Needham 1972; Smith 1977]。

② 抑圧というコンテクストとの関連性を指摘する場合に、抑圧する西欧／抵抗する非西欧という二項対立構造が、社会過程から切り離され客体化されている[石井 2003]。二項対立的な図式をもとに、個人を支配に抑圧された主体に還元することで、複数の社会関係に位置づけられる人々のアイデンティティの動態性を捉え損ねてしまう。

II. 研究の成果

① 上述の問題点を乗り越えるために、ナバホ保留地における NAC 宗教実践空間がどのように生成するかについて文献調査を行い、論文にまとめた。その論文において、20 世紀半ばにインディアン局主導による強制的な家畜削減が行われた結果、核家族を単位に移住し賃金労働に従事することで断片化していった親族関係にある人々が、ネイティブ・アメリカン・チャーチの宗教実践空間に集うことを通じて親族的な共同性の再構築していることを明らかにした。また、宗教実践を抵抗に還元することを可能にする空間概念を問題化した。

② また、2011 年 11 月 7 日から 12 月 6 日までの 1 ヶ月間、アメリカ合衆国のナバホ保留地にて予備調査を行った。現在、ナバホ保留地内で現地調査を行う場合、ナバホ保険省内のナバホ政府人的調査委員会 (Navajo Nation Human Research Review Board: 以降 NNHRRB) の定める手順に従い調査許可申請を行い、厳しい審査を経て調査許可を得る必要がある。しかし、今回の予備調査は、調査許可が下りていなかったため、公表可能なデータを収集することは出来なかった。

そのため、今回の予備調査では政府機関に出向き、委員との対面的な接触を試み、調査許可のための情報を得た。また、近年は先住民の人権に対する人々の関心が高まっており、調査が拒否されるケースが考えられるため、申請者は 20 名程の個人への

研究成果の概要 つづき

接触を試み、今後の調査のための人間関係の構築に勤めた。

Ⅲ. 今後の課題と展望

1960年代以降、これまで一方向的に調査の対象とされた先住民の人々が、非先住民による先住民の表象や調査に対して厳しく批判するようになった。NNHRRBのような調査に対する各部族政府による厳しい制限は、調査によって得られた様々なデータや物の管理や、双方向的な研究を実現しようとする取り組みであると位置づけられる。

しかし、研究者が課題とし問題とみなす事柄が、ナバホ政府が課題とし問題とする事柄と必ずしも一致しないことがある。学問的な知識生産の実践が特権的な地位に甘んじることが不可能な状況において、学問的な課題を維持しつつ研究対象者へと知識を還元することはいかなる態度として可能なのかという課題が先住民研究にはある。

今後、文化人類学的視点を社会的な意義・波及効果へと還元する公共人類学的関心と呼応する試みとして、研究の成果だけではなく学問的な視点からの現状の問題点を調査対象社会へ積極的に発信することで、公共圏においてマイノリティである先住民の人々への研究成果の還元を目指す。

参照文献

石井 美保

2003 「精霊の流通——ガーナ南部における宗教祭祀の刷新と遠隔地貿易」『民俗学研究』68(2):189-213。

タンバイヤ、スタンレー・J.

1996 『呪術・科学・宗教—人類学における「普遍」と「相対」』 多和田 裕司(訳)、思文閣出版。

Aberle, David

1966 *Peyote Religion among the Navajo*. Chicago: Aldine Publishers.

Asad, Talal

1993 *Genealogies of Religion*. Baltimore Maryland : The Johns Hopkins University Press.

Harré, Rom.

1981 Psychological Variety. In *Indigenous Psychology*. P. Heelas and A. Lock eds., 79-104. London : Academic Press.

Needham, Rodney

1972 *Belief, Language, and Experience*. Oxford, England : Blackwell.

Smith, Wilfred Cantwell

1977 *Belief and History*. Charlottesville : University of Virginia Press.

を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。

（様式3）

立教SFR－院生－報告

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

- ①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
- ②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
- ④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

④その他：

渡辺浩平、「ネイティブ・アメリカン・チャーチの宗教実践空間における共同性」、千葉大学人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第241集『空間を記述する』、2012、pp.8-30。